

肝生検術後の安静方法の検討

～他施設へのアンケートを実施して～

キーワード:肝生検・安静・安静時間・固定方法

B病棟7階 ○細川 浩子 南田 実希

【はじめに】

当病棟では、肝生検施行後止血目的で500グラムの砂嚢を使用して、4時間ベッド上安静を行っている。患者様から、安静による苦痛と砂嚢による圧迫感やずれに対する苦痛の声がある。先行研究で、肝生検後の患者は身体的苦痛と精神的苦痛の二重に苦痛を感じていることが分かっている。文献検索によると、肝生検術後の安静時間は施設により様々であり、また、創部の固定方法も統一されておらず砂嚢による止血の効果も明確なエビデンスはなかった。しかし、砂嚢をなくし出血の有無や安静時間・方法を研究するには、先行研究がなく、エビデンスも明確ではないためリスクが高いと判断した。

そのため、前研究として、他施設の肝生検術後の安静方法や、施設毎の看護の方法を知り、よりよい安静方法を検討することで、安静中の身体的苦痛・精神的苦痛を軽減することにつながるのではないかと考えアンケート調査を行ったので報告する。

【方法・結果】

近畿2府4県の公立病院を無作為に選定し118病院を対象とし、肝生検の実施場所・件数・術後の安静時間・創部の固定方法・苦痛の有無・苦痛への対処方法など13項目で択一及び記載形式のアンケート調査をした。倫理的配慮に関しては、回答は無記名とし、個人が特定されないこと、個人情報漏えいがないこと、協力への自由意思、回答内容による不利益がないことを質問紙依頼分に記載し、アンケートの提出により同意するとし、看護部の承認を得て実施した。回収率は、53施設45%有効回答率は40%であった。

肝生検術後の安静時間については、1時間が1施設、2時間が7施設、3時間が17施設、4時間が6施設、5時間が3施設、6時間が9施設、15時間が1施設、16時間が2施設、24時間が1施設であった。砂嚢を使用している施設は6施設、使用していない施設は41施設であった。肝生検術後の苦痛についての自由記載では、安静による腰痛が18件ともっとも多く、ついで同一体位保持による苦痛が11件だった。その他にも、床上排泄に対する苦痛が6件、砂嚢に対する苦痛や、口渇、床上での食事に対する苦痛、安静時間が長いことに対する苦痛があった。しかし、安静時間が3時間以下では特に苦痛の訴えがないという施設も多かった。

【考察】

47施設中砂嚢を使用している施設はわずか6施設であった。今回のアンケートでも、砂嚢による苦痛があった。砂嚢使用の有無に関係なく、出血等のトラブルの記載は

みられなかった。柴田は¹⁾、固い肋骨の上から圧迫帯固定して肝表面の穿刺部に圧力が加わることは理論上ありえない。と述べている。砂嚢を廃止できれば患者の苦痛が軽減できると考えられ検討課題である。

また、肝生検術後の安静時間については、1時間～24時間と大きな差があった。安静時間が長ければ長いほど患者の苦痛の訴えが多い傾向があった。安静時間が1時間～3時間程度の施設では、苦痛の訴えがないという記載も多かった。安静時間の短縮が望ましいが、安全面を十分に考慮しなければならない。苦痛の訴えの中で最も多かったのは、腰痛であり、ついで同一体位保持による苦痛も多かった。荒川²⁾は、痛みの経験は全く主観的なものである。それゆえ、痛みは全人的に理解されなければならない。すべての痛みに共通して言えることは、痛みは生理学的・心理学的要素が入り混じった複雑な現象であるということであると述べている。多くの施設で苦痛の緩和方法として、マッサージや指圧が取り上げられていた。マッサージや指圧は、患者の体に触れることによりタッチの効果が得られ、不安の軽減に効果が期待できる。不安の減少が痛みの緩和にもつながると考えられ、苦痛緩和の看護介入として効果的であると考えられる。荒川は³⁾、痛みを伴う医療処置や検査などの実施中にナースが患者の手を握ったり肩や腕に触れたり体の一部に触れているだけでも患者は筋肉が弛緩するように感じこれが苦痛や痛みの軽減につながると述べている。

今回、アンケートを実施して、いろいろな苦痛の声があり施設により様々な看護の工夫や取り組みがみられた。すべての苦痛が取り除けるわけではないが、看護師が患者の痛みの訴えを受け止めることが大事である。ケアをすることにより、患者自身は自分自身も受け止めてもらえたと考え心も癒されることにつながると考える。訴えの内容だけに注目するのではなく、顔の表情や口調、声の大きさなどの非言語的メッセージからどのような気持ちがあるのか意識しなければならない。その気持ちをくみとり、看護の中に生かすことができればより患者の気持ちに沿った看護につながるのではないかと思われる。

【結論】

1. 砂嚢を使用している施設は48施設中6施設、使用していない施設は41施設、無回答1施設であった。
2. 肝生検術後の安静時間は施設により1時間～24時間とばらつきがあった。
3. 安静時間が3時間以下の短い施設は、苦痛の訴えがない施設も多かった。
4. 肝生検後の苦痛の声に対して施設により様々な取り組みがみられた。